

事業シート（概要説明書）

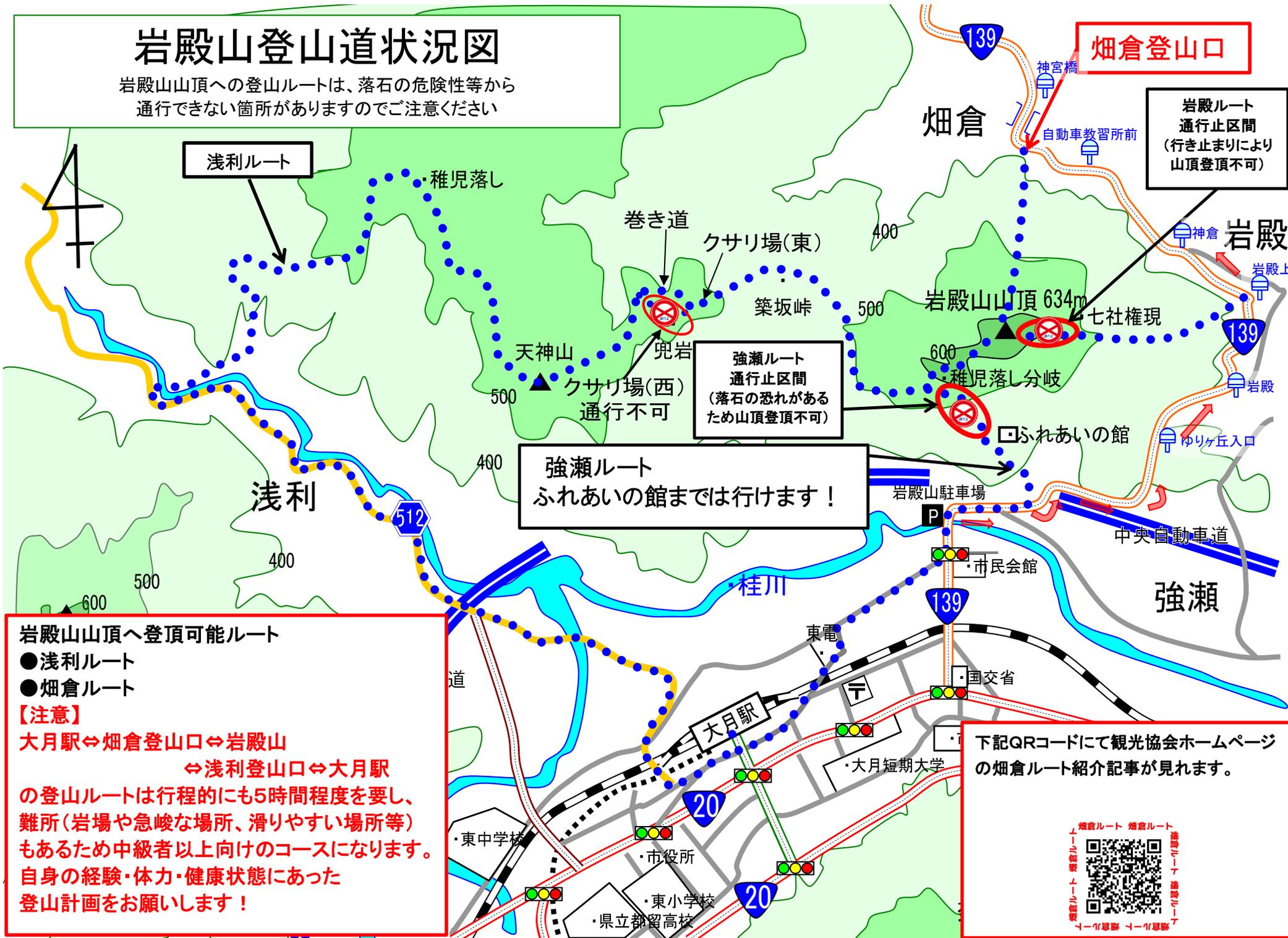
予算事業名	岩殿山ふれあいの館運営事業		事業開始年度	平成6年度							
上位施策事業名	6-3観光の振興		担当局・部名	産業建設部							
根拠法令等	大月市都市公園条例、大月市岩殿山ふれあいの館管理規則		担当課・係名	産業観光課 観光担当							
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		作成責任者	石原丈士							
実施の背景	市制施行40周年を祝う記念行事として、岩殿山中腹の丸山公園内に中世の城をイメージして平成6年に建設。1階「映像ホール」2階「展示室」で構成、映像ホールにはプラネタリウムを整備。										
目的 (何をどうしたいのか)	市内有数のさくらの名所として名高い丸山公園へ、さらに多くの人々が訪れ、市民の憩いの場、学びの場として活用する。										
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	市民 他		対象者数（全住民に対する割合）							
				人	( ) %						
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託 又は <input type="checkbox"/> 指定管理（委託先又は指定管理者：東部広域シルバー人材センター） <input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体：） <input type="checkbox"/> 貸付（貸付先：） <input type="checkbox"/> その他（）									
	事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）	事業費	活動指標							
	関連事業 (同一目的事業等)										
コスト	令和4年度（予算）		令和3年度（決算）		令和2年度（決算）		令和元年度（決算）				
	事業費合計		4,079千円		3,852千円		1,378千円		1,602千円		
	事業費 (令和3年度分)	支出内容				支出内容					
		需用費	消耗品費	36		委託料	警備委託料	317			
		需用費	光熱水費	898		委託料	機械設備等保守管理業務委託料	12			
		需用費	修繕料	2		委託料	施設等維持管理業務委託料	2,490			
		役務費	手数料	96		使用料及び賃借料	借地料	1			
	人件費	担当正職員	0.6人	4,192千円	0.6人	4,192千円	1.6人	11,178千円	1.6人	11,178千円	
		臨時職員等	0人	0千円	0人	0千円	0人	0千円	0人	0千円	
		人件費合計	0.6人	4,192千円	0.6人	4,192千円	1.6人	11,178千円	1.6人	11,178千円	
総事業費		8,271千円		8,044千円		12,556千円		12,780千円			
財源 内訳	国県支出金		0千円		0千円		0千円		0千円		
	国県支出金の内容										
	地方債		0千円		0千円		0千円		0千円		
	その他特財		2,510千円		25千円		47千円		66千円		
	その他特財の内容		ふるさと大月応援基金、自動販売機取扱手数料、入場料								
一般財源		5,761千円		8,019千円		12,509千円		11,112千円			
財源合計		8,271千円		8,044千円		12,556千円		11,178千円			

事業シート（概要説明書）

予算事業名		岩殿山ふれあいの館運営事業			事業開始年度	平成6年度	
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）		単位	令和3年度	令和2年度	令和元年度
		岩殿山ふれあいの館 開館日数		日	276/305	239/305	280/304
					/	/	/
					/	/	/
	単位当たりコスト	総事業費	/	開館日数	千円	29	53
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	岩殿山の入込数、岩殿山ふれあいの館の来館者を増やす。					
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）		単位	令和3年度	令和2年度	令和元年度
		岩殿山入込者数		人	21,182/45,500	33,730/45,500	45,143/46,000
		岩殿山ふれあいの館入館者数		人	3,395	1,126	3,288
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	鏡岩岩盤崩落に伴いふれあいの館から上の登山道を令和元年8月28日から閉鎖中で、開放する見込みは立てられない状況にあり、登山道閉鎖前と閉鎖後では、強瀬側登山道入り口の往来者は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も相まって1年間で約60%減少している。ふれあいの館の入館者数も同じく大きく減少し、新型コロナウイルス感染症拡大によりさらに減少しているが、写真館の入場者は微減程度である。						
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）							
特記事項	岩殿山ふれあいの館の運用活用について、令和2年度にサウンディング（官民対話）に参加し、宿泊施設や飲食施設など、活用アイデアの提案をいただいた。						

# 岩殿山登山道状況図

岩殿山山頂への登山ルートは、落石の危険性等から通行できない箇所がありますのでご注意ください



浅利ルート

畑倉登山口

岩殿ルート  
通行止区間  
(行き止まりにより  
山頂登頂不可)

強瀬ルート  
通行止区間  
(落石の恐れがある  
ため山頂登頂不可)

強瀬ルート  
ふれあいの館までは行けます！

岩殿山山頂へ登頂可能ルート  
● 浅利ルート  
● 畑倉ルート  
【注意】  
大月駅⇄畑倉登山口⇄岩殿山  
⇄浅利登山口⇄大月駅  
の登山ルートは行程的にも5時間程度を要し、  
難所(岩場や急峻な場所、滑りやすい場所等)  
もあるため中級者以上向けのコースになります。  
自身の経験・体力・健康状態にあった  
登山計画をお願いします！

下記QRコードにて観光協会ホームページ  
の畑倉ルート紹介記事が見れます。





岩殿山からの桜と富士山

大月市民に大変親しまれています。かつて武田氏二十四将のひとり、小山信茂公がこの要害の地に築いた岩殿城は、関東の三名城のひとつに数えられた当時の面影を今日にとどめています。そして平成七年にはこの岩殿山が、貴重な史跡として県文化財の指定を受けました。今後の学術調査や研究の成果に大きな期待が寄せられています。なお、岩殿山のいただきから望める富士山は、大月市が誇る「秀麗富嶽十二景」のひとつに選定されています。

## 富士の眺めが日本一美しい街大月市

## 白簷史朗写真真館



料 金	市 外 在 住	市 内 在 住
高校生以上	300円	200円
小・中・小学生	200円	100円
未就学児童	無	料



**開館時間** 午前9時～午後4時

**休館日** 毎週月曜日  
(ただし、月曜日が祝日の場合は翌日の火曜日)

12月27日から翌年1月5日まで。

**交通アクセス** 自動車／中央自動車道大月IC.より

駐車場まで約20分

電車／JR大月駅より徒歩30分

駐車場／岩殿山丸山公園市営駐車場

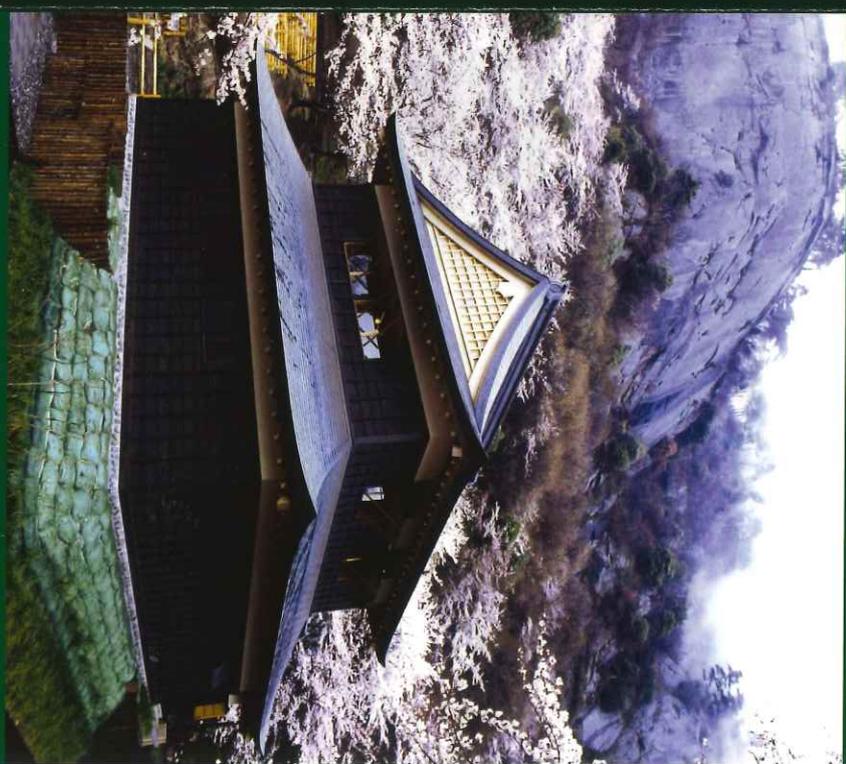
**お問い合わせ先** 岩殿山ふれあいの館管理事務所

■山梨県大月市賑岡町菰瀬81-1 ■TEL/0554-23-4611

# 岩殿山

ふれあいの館

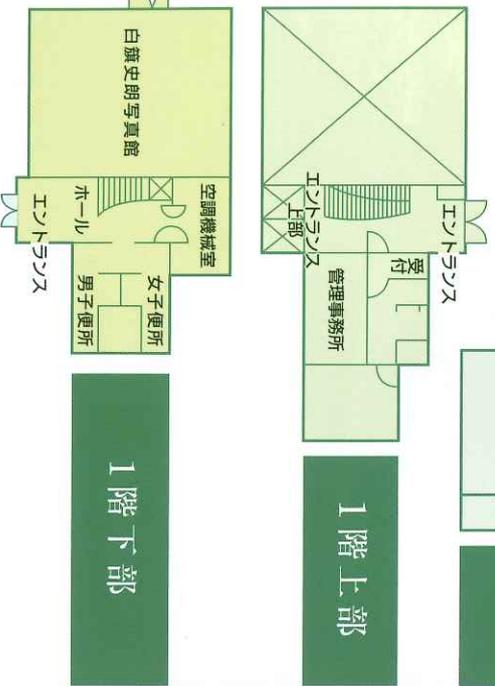
山梨県  
大月市





市制施行40周年を祝う記念事業として、岩殿山中腹の丸山公園内に中世の城をイメージし、「岩殿山ふれあいの館」として建設されました。その落成を機に、市内有数の桜の名所として名高い岩殿山へさらに多くの人々が訪れ、現在では“憩いの場”となっています。

館内を構成するのは、1階「白簾史朗写真館」と2階「展示・展望室」。白簾史朗写真館では、大月市出身で山岳写真家の白簾史朗氏の作品をお楽しみいただけます。



## 白簾史朗写真館 (1階下部)



大月市出身の山岳写真家白簾史朗先生が撮影した、秀麗富嶽十二景から眺めた四季折々の富士山の写真を中心に展示しています。また、今では見ることが出来ない、大月市の昔の写真を展示しています。

(※白簾史朗写真館に入場する場合は、入館料が必要となります。)

## 展示・展望室 (2階)



この展示場では、大月市が定めた「秀麗富嶽十二景」その山々から撮影した四季折々の富士山の写真をテーマに毎年写真コンテストを開催し、入賞した作品の展示や岩殿城と深い関係のある、小山田信茂に関する資料を展示しています。また展望室からは富士山や大月市の街並みを望むことが出来ます。

# 大月 さくら祭り

3月下旬～4月中旬開催



関東三名城「岩殿山」・桜三千本「真木お伊勢山」の二会場にて毎年開催されます。開催期間中はふれあいの館周辺にて花見席が用意され、岩殿山丸山公園のライトアップも行われますので、風流な夜桜を楽しむことも出来ます。

## 岩殿山登山道

大月駅からぐるっと巡って駅に戻ってくるコースです。

お勤めコースタイム 約3時間40分



岩殿山の登山道の代表的なルートは「岩殿山」～「築坂峠」～「兜岩」～「天神山」～「稚児落」とし～「浅利集落」を辿るルートになっています。途中、兜岩までは、鎮場が2カ所ありますので、気をつけて通行するよう、稚児落として下さい。天神山を越えてしまはらくすると、稚児落として見えてきます。大月とは思えない絶景がそこにはあります。周辺には、休憩スペースがありますが、すぐ崖になっていますので、ご注意ください。

